

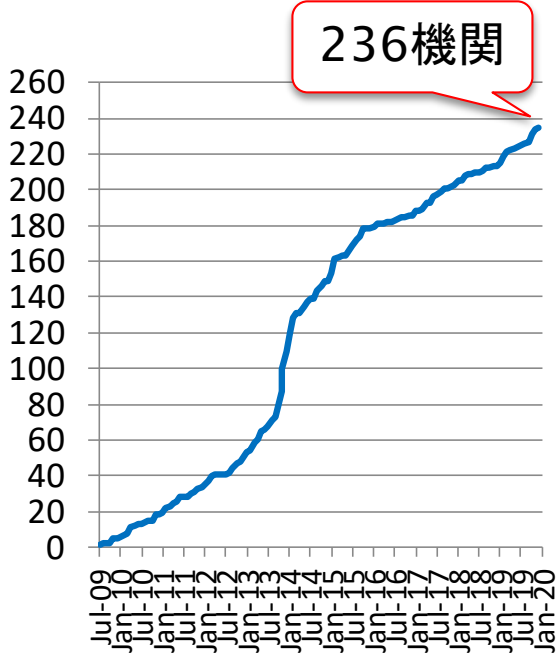


学認のこれからの方向性

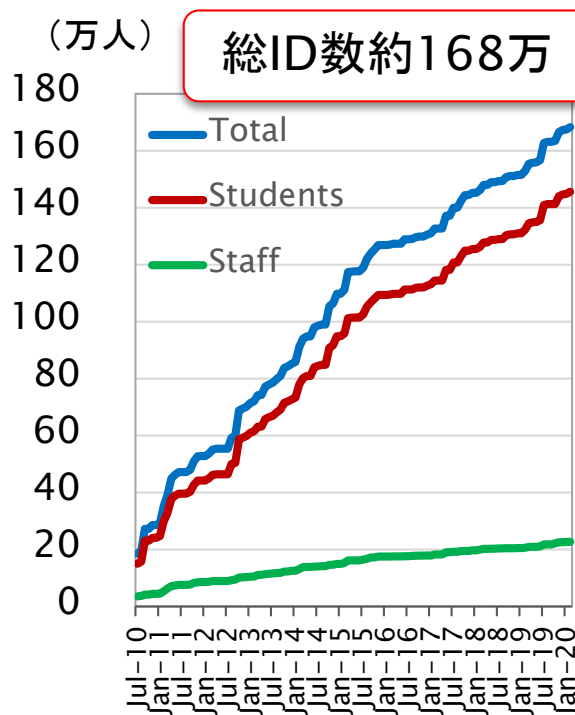
NII オープンフォーラム 2020
国立情報学研究所

IdP/SPの推移(2020/2末現在)

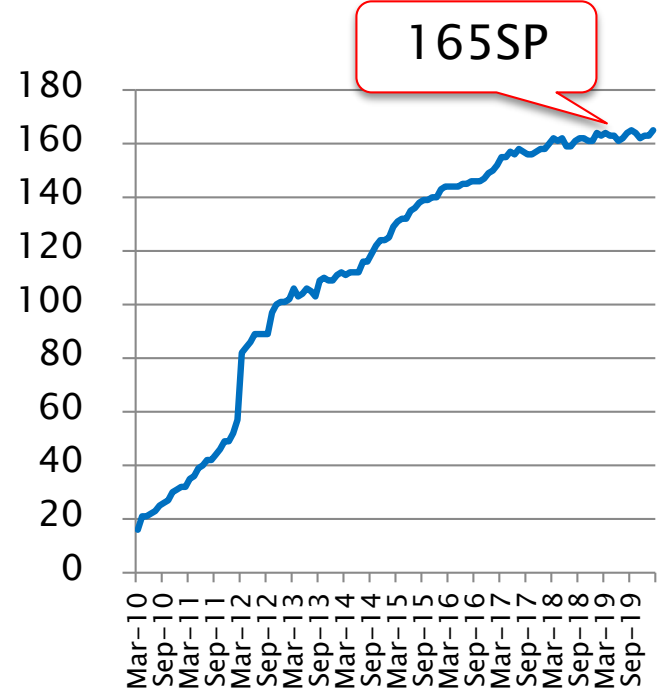
IdP機関数



IdPユーザ数

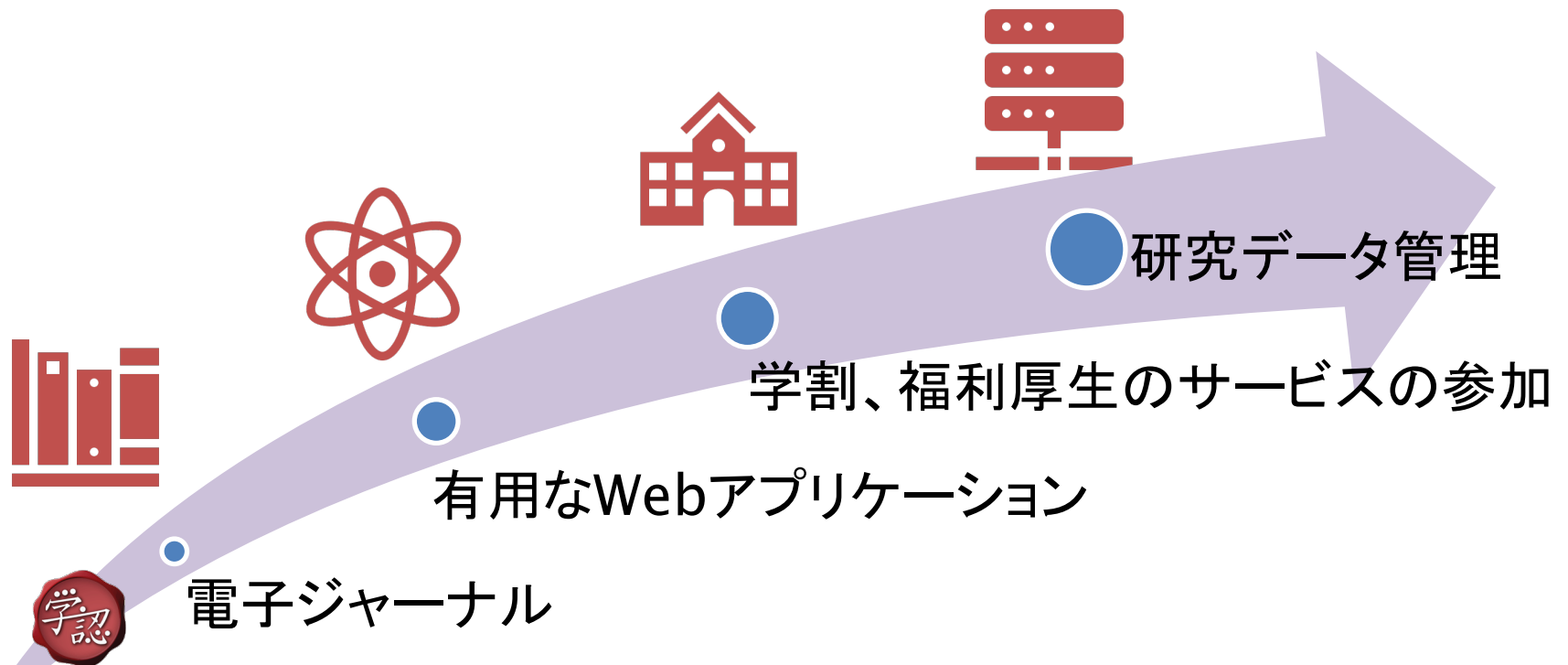


SP数



	国立大学	公立大学	私立大学	短期大学	高等専門学校	共同利用機関	その他	合計
学認参加数	77	23	72	0	51	3	9	236
カバー率	89%	24%	12%	0%	89%			
総機関数	86	91	604	333	57			

学認で使えるサービス(SP)の変遷



フェデレーションのさらなる普及のために



キラーアプリ(これを使いたいから参加したい)の増強

GakuNin RDM のような、日々の研究に不可欠なアプリケーション



産学連携のため、異業種ID連携の推進

産と学でVO(仮想組織)を構築してすすめていくようになる
産業界や民間のIDとの連携



認証の高度化

より機微な情報を取り扱うための、高い認証強度が必要

機微な情報の取扱いに耐える、高い認証強度の実現に向けて

▶ IdPにおける多要素認証の導入推進

- ▶ クライアント証明書
 - ▶ tiqr
 - ▶ FIDO
- など...

▶ 多要素認証プロファイルの策定

- ▶ 学認は、パスワードのみ認証より強固な認証として、多要素認証の普及を勧奨
- ▶ すでに、学認参加機関では様々な形態で導入がはじまっている

▶ 多要素認証を必須とするSPの増加に向けて

- ▶ SPの多様化、高度化
- ▶ 産学連携における需要(高いセキュリティへの要求)
- ▶ IdPは「このユーザは多要素で認証された者である」と保証する必要に迫られる